

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 デーリイマン2月号 デーリイマン社
時代はゲノミック ヤングのみならず検定済み種雄牛も使用するアメリカ
スタートから今日まで、世界の取り組みをとどる
家畜改良事業団顧問 家畜改良技術研究所所長 富樫研治
- 2 農業共済新聞1月18、25、31日、2月8日号 全国農業共済協会協会
牛群検定を使いこなす 全4回
インターネット、アメダス、スニップと言った最新技術を取り入れた新しい牛群検定を紹介
- 3 全酪新報2月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスンその44 飼養管理に「アメダス」
新しく牛群検定に取り入れた気象情報の活用方法
- 4 酪農ジャーナル2月号 酪農学園大学エクステンションセンター
牛群検定だより(第35回)新情報「気象情報」を公開
1月から牛群検定成績表にアメダス気象情報を表示しています。
- 5 L I A J ニュース1月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その46)
気象情報の表示(平均気温、降水量、日照時間)
酪農経営に大きな影響を及ぼす気象情報を牛群検定に取り入れました。暑熱対策や寒冷対策にお役立てください。

牛群平均情報を活用しよう！

検定成績の活用は様々なものがありますが、もっとも簡便な方法は平均値と比較することです。当団HP状には、牛群検定成績表の各項目の平均情報が掲載されています。自身の牛群の乳量や分娩間隔の成績が県平均や都府県平均と比較して良いのかどうか比較検討してみましょう。



牛群検定平均情報 検索



繁殖コード「C」(繁殖に供さない)をご存じですか？

繁殖障害等により、授精を何回行っても受胎しない場合、残念ながら繁殖をあきらめなければならないことがあります。繁殖障害は他の周産期病とことなり、搾乳に影響しないことも多いので、当該乳期は搾り続けてから淘汰するというのが一般的です。この場合、牛群検定上報告しなければならないのが「C報告」(繁殖に供さない)です。牛群検定ではNR70法(最終授精から70日間次回の授精報告が無い場合は妊娠とみなすという自動妊娠判定法)を採用していますので、繁殖をあきらめた検定牛もどんどん妊娠牛と判定されてしまいます。これは、自牛群の妊娠頭数や分娩予定頭数を正しく把握できないことになります。「C報告」をきちんと行っておけば、このようなトラブルは発生しません。

繁殖コード「C」には、もう一つ大事な意味があります。当該乳期終了後に淘汰するのであれば、繁殖コード「C」には、淘汰予定牛という大事な意味を合わせ持ちます。初妊牛が高騰している現在、淘汰予定牛を的確に把握しなければなりません。

なお、一旦「C」を報告された検定牛が授精を再開しても、システム上ではエラーとなりません。

分娩間隔	頭数	36日未満	365日～	395日～	425日～	455日以上	分娩間隔（予定）
	頭	%	%	%	%	日	日
2産	38	29	18	11	8	34	441（433）
3産	18	14	14	29	29	14	403（404）
4産以上	10	20		30	40	10	420（406）
平均又は合計	66	26	16	14	14	30	435（420）

年間追加除籍牛
未經産
1産
2産
3産以上

計（平均）
除籍率

16
14
13

16
14
13